

# 笑ってほっとして

財団法人大阪国際児童文学館と毎日新聞社などは、東日本大震災の被災地に本を贈る「いっしょだよ」キャンペーン



ペーンを進めている。童話作家の二宮由紀子さん(55)に、被災した子どもたちへの思いや本の魅力を聞いた。【聞き手・反橋希美】

童話作家

## 二宮由紀子さん(55)

兵庫県西宮市



阪神大震災の時、兵庫西宮市に住んでいた私の友人たちも被災しました。覚えていたのは、笑い話があふれていたことです。着の身着のまま焼け出されたお年寄りたちが、寒さをしのぐため

東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーンへの寄付金が、4月に募集を始めてから1500万円を超えました。主催する財団法人大阪国際児童文学館、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団は、本の配布先を募っています。本を失い、必要としている学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫などが対象です。施設や子どもの人数、年齢などに応じて本を選んで購入し、汚れや破損を防ぐ保護カバーをつけて届けます。避難所の場合は、閉所後は学校図書館などへの移管をお願いします。

問い合わせは(財)大阪国際児童文学館「いっしょだよ」キャンペーン事務局(☎06・6744・0581、ホームページ<http://www.iiclo.or.jp>)へ。

寄付金は毎日新聞大阪社会事業団(郵便振替00970・9・12891)へ。通信欄に「子どもの本」、紙面掲載で匿名を希望される方は「匿名希望」と明記してください。

に高級ブランドのコートをもらったのはいけれど、飾りがジャラジャラ付いていて困らせていたとか。皆競って「ネタ」を披露しました。東北にも、笑い

があればいいなと思います。皆が少しづつ我慢している今、子どもの心の自由が奪われていないか心配です。かつて学校になじめない子だ

った私にとっても、唯一の自由な逃げ場が本でした。しんどい時こそ本が力をくれる。どうかくだららない話でも読んで笑って、ほっとしてください。